

空軍ニュース：ウクライナ危機と中露の大型ヘリ共同開発

漢和防務評論 20151201 (抄訳)

阿部信行

(記者コメント)

ウクライナとロシアの衝突によって、ロシアは、ウクライナ製のヘリ用エンジンが調達できなくなりました。

ところが去年、ウクライナ製エンジン搭載を前提とした大型ヘリの共同開発に中露間で合意していたということです。開発は手持ちのエンジンで間に合わせ、少量生産に入る段階で、エンジンは中国がウクライナから直接購入すれば良いとのことですが、このような話は他の世界では通用するのか？疑問に感じた次第です。外貨が欲しいロシアはそれほど追い詰められているとも見る事ができません。

ウクライナとしては、ロシアに利するプロジェクトには協力するとも思えません。西側から圧力がかかる可能性もあります。

KDR 平可夫モスクワ特電：

中露間で今年（2015）合意した大型ヘリの共同開発に関して、ロシア聯合航空機集団公司総裁の A.MIKHEYEV は、KDR の取材に対して次のように述べた：新たな大型ヘリは MI-26 を基礎にしているが、完全に再設計されたものだ。現在双方は協議グループを立ち上げ、設計概念や進め方に就いて具体的な協議に入っている、と。ロシア聯合ヘリ集団の消息筋は：中露が共同開発する大型ヘリは MI-26 の D-136 型エンジンを採用する予定だ、と述べた。

しかしこのエンジンは、ウクライナの MOTOR SICH 社が生産しており、ウクライナの全面協力がなければ、中露の新しい大型ヘリの開発は順調に進展しないのではないかと？現在中露双方が対策を検討しつつある。ロシアの消息筋の対策案は、明確かつ積極的である。すなわち、試験飛行段階ではエンジン不足は問題にならないので、将来、小規模生産に入った段階でウクライナと中国が D-136 エンジンの輸入に就いて直接交渉すれば良い、と。したがって全体的に見て、エンジンの問題は、特に設計段階では、大型ヘリの共同開発に影響はない、と。

このエンジンの問題は、同様にロシア軍の MI-35M、KA-52、MI-28N 型ヘリが使用するウクライナ MOTOR SICH 社製の VK-2500 エンジンにも関連してくる。中国陸軍航空部隊が使用する MI-17 系列のヘリが使用する VK-2500 エンジンは中国がウクライナから直接購入したものだ。ロシアは、ウクライナの対露武器禁輸政策の影響を避けるため、自らサンクトペテルブルグの工場と同種エンジンの組み立てを計画している。2016 年には 50 台組み立てる。

今年初めて公開された海軍版の KA-52K 型ヘリも同様のエンジンを使用している。

このヘリは、本来、フランスが提供する”ミストラル級強襲揚陸艦”に搭載する予定であった。

契約はすでに破棄されたが、聯合ヘリ集団の消息筋は：KA-52K計画は取り消されない。今後生産段階に入るであろう、と述べた。

ウクライナとロシアの軍事工業の連繋が断ち切られたので、キエフは今後中国との軍事協力を更に進めるであろう。特にヘリ用の各種エンジンは、上述の2種類を含め、全てウクライナが提供したものだ。ロシアは、以前から、ウクライナにとって最大の武器、及び武器部品の輸出国であった。中国は長年第2位の位置を占めていた。ウクライナの軍事工業部門は、今回のモスクワ航空ショーをすべてボイコットした。

以上